

【2017年度実施 太陽光型生産管理者育成長期研修 受講生の感想】

2017年度に実施された研修の受講生より感想を頂きましたので記載致します。

■『当たり前のことを、当たり前の高いレベルでできる！！』

講義でこの言葉を聞いても、何の感動もありませんでした。

しかし今回の実習は私の常識を一変させました。

今まで当たり前だと思っていた私の現場は”もってのほか”であり、

あの現場が”当たり前”な姿なのだと思うようになりました。

事業所内の大小様々な物・状態・行動ひとつひとつすべてが”当たり前”にあるべき姿なのです。

この世界にどっぷり漬かった体験が、私の”当たり前”基準を変えたと思います。

漬かった体験が、私の”当たり前”基準を変えたと思います。

■大型（3ha）でかつ高度な環境制御などの設備が備えた施設において研修が実施されたことは非常にありがたい機会であると感じております。

研修では現場での作業の実習も一通り体験を行いました。

これについては、ある程度作業についての理解も必要であることやまた、作業の違い（作業者の速度や品質）により運営も異なることから重要であると思います。

また、研修の内容が、当初の計画とは異なることもありましたが、現場の方のご厚意により、施設の管理者であるグローワー（栽培担当者）、クロープマネージャ（労務管理者）とある程度の時間、ディスカッションできる機会も設けられていたため、上手にフォローしていただいたと感じています。

田中社長から、経営者の立場からみた大型施設の経営について直接聞く機会もありました。今回の研修とは直接関係がなくても、やはり経営者の考えは、運営に大きく影響していて、興味深くお聞きしました。

また、栽培面の課題については、千葉大学の丸尾先生により指導を受けている場にも、立ち会うことができ、オランダから導入された技術が、日本の知識や経験により日本の環境（気候や社会的条件など）に合わされていくことも肌で感じる事ができました。

以上のように多岐にわたるトピックスを扱い、実際の生産現場（経営上成り立っている施設）で得難い経験や知識を得られたことは間違いないと感じます。

研修内容について、研修効果を担保するために、例えば課題を抽出し、ケース（栽培の問題、労務の問題などの典型例）を事前の準備として用意してあると良いという考え方もあります。

ただ、今回は「せっかく現場にいて、実際の担当者と話す機会があるのだから、仲良くなって、たくさん質問してください。」という趣旨だと理解し、受講者で質問内容を協議し、質問の時間にお聞きする時間をとっていただきました。

受け入れ側の大きな負担の上に成り立っているという点がありますが、贅沢な研修方法であったと思います。

受講者同士で協議を行う時にも、受講者の方の経験も拝聴できる機会もあり、より理解が深めることができたと思います。

■農業資材関係の会社で働いており、会社で、新規農業参入でトマト栽培を始めることとなったので、本セミナーに参加しました。

主な目的は、農業は、不確定な要素（天候や人によって感覚が違う作業の仕方など）が多い中、どのように、農場で働く社員が、どのようにパートさんを管理しながら、どのように農場を運営しているかを知るためでした。特に、大規模農場の場合は、働いている人数も多く、その中で、効率よく運営していくことは、自分には想像がつかないところでした。

実際に参加してみると、最初は、あまり特別なことをしているようには、思いませんでしたが、割と、言われてみると当たり前ですが、経験なり体験してみないと気づかない、小さい発見が、パートさんと社員さんのやり取りや、現場の環境や、農場のルールや、作業の仕方に、いろいろありました。特に、今回参加した農場では、社員さんは、パートさんに対して、非常に丁寧に説明をしている点は、現在、新規参入の1年目の私には、参考にしながら、取り入れている部分です。自社の農場では、パートさんに、理由や目的を説明した上で、作業してもらい、その結果、パートさんの作業も丁寧になり、パートさんにやってもらった作業にも納得することが多い気がします。作業してもらった結果が、納得がいかない場合は、自分自身の説明に、いい加減なところがあったり、日々見直すことが多いですが、改めて、セミナーに参加したことで、そういう見方ができるようになったと思っています。

アグリビジョンの責任者とも、割と時間を作ってくれて、いろいろな日々抱えている課題や栽培上の問題点の情報交換も出来、セミナーに参加していた他の方とも、セミナー終了後も、情報交換できるような仲になり、自分にとっては、得るものが多いものでした。